

2022年1月13日(木)

① 保有資産を減らす量的引き締め(QT)

利上げ開始から間を置かずに保有資産を減らす QT に着手することも既定路線になりつつある。パウエル議長は11日の公聴会で

「おそらく年後半に保有資産の縮小を開始するだろう」

と語った。

FRB が国債などを大量に抱えているだけで金利には一定の低下圧力がかかり、緩和的な金融環境が続く。

パウエル議長は現在の9兆ドル近い保有資産が

「必要な水準をはるかに超えている」

と指摘し、QTを急ぎたい意向をにじませた。

② 「ミスター円」榊原英資氏

「足元は円安というよりも米経済の強さを背景としたドル高が進んでいる。米経済の回復力は引き続き強いと考えられるので、22年末から23年にかけて 1ドル=130円程度まで円安・ドル高が進む可能性がある」

③ 大学ファンド

大学ファンドから高配当利回り株への資金流入が期待されている。

大学ファンドは2021年度中に運用を始める予定で、資産規模は12月の補正予算成立で10兆円規模となった。

運用責任者が過去のインタビューで

「まずは利回りが確定している債券や社債、配当が期待される株式などを中心に、収益をためていくことを強く意識する」

と言及した。

年度内は高配当利回り株に相対的に大きな資金が流入するとの期待が続いている。

④ 米 CPI

米労働省が12日発表した2021年12月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比の上昇率が **7.0%**と39年半ぶりに7%台に達した。

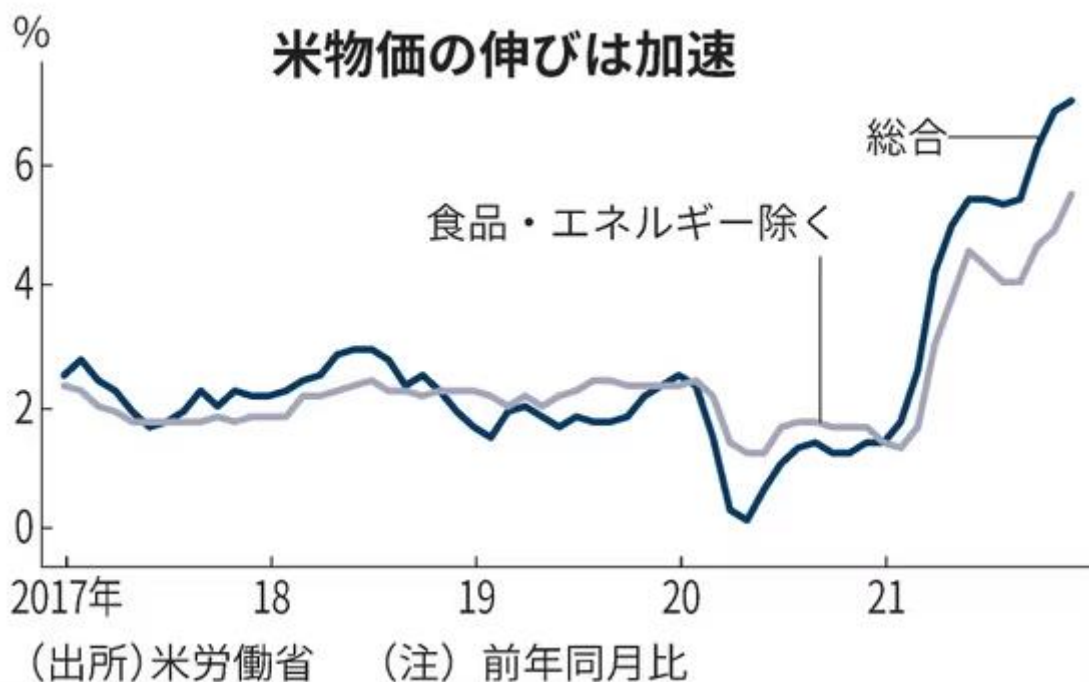
供給不足や需要の高まりで自動車や食品、住居の値上がりが一段と進んだ。

ガソリン価格の高騰も続いた。

12月は変動の大きい食品とエネルギーを除く上昇率も **5.5%**と、11月の4.9%から一段と高まった。半導体不足で新車の供給が滞るなか、中古車の価格は前年同月比 **37.3%**上昇し、11月から伸び率が5.9ポイント拡大した。

CPIの上昇率が市場予想並みにとどまったのを受け、米長期金利が低下した。

「物価上昇率のピークアウトは近い」との指摘があり、春以降はインフレ率の鈍化を見込む投資家が多い。



米国債券2年利回り			0.909	▲1.10%	+0.010	H:0.917 L:0.881	05:59
米国債券5年利回り			1.499	▼0.52%	-0.008	H:1.524 L:1.476	05:59
米国債券10年利回り			1.736	▼0.59%	-0.010	H:1.753 L:1.711	05:49
米国債券30年利回り			2.088	▲0.75%	+0.016	H:2.090 L:2.046	05:59

⑤ WTI & GOLD & CRB 指数

原油・金価格・CRB 指数が高値追い。
債券から明らかにマネーが移ってきています。

